ギリシア 世界

- 前1400年 — ギリシア系民族侵入 / 源流 / 不明な点が多くて滅ぶ？
  - 線文字B
  - 線文字A
  - 線文字
- 前2000年代 — 青銅器文明
  - 解読的、平和 / 城壁なし！ / 海洋中心 — 宮殿建築 クノッソス — クレタ文明 @クレタ島
  - 城壁 エウトンズ @ミケーネ
- エーゲ文明 — 青銅器文明
- 前2000年代 — 城壁王宮 — ミケーネ文明 @ギリシア本土 — アカイア人
  - ミケーネ
  - 戦闘的
  - ティリンス
  - 色々ス
  - ホメロス的事件伝説
  - 青銅器
  - 線文字B — ミュケーナイ人 @ドイツ
  - ハ.アジア
  - トロイア文明
  - 前1250年 滅ぼす
- 前16世紀
  - クレタ島にも侵入。
  - 小アジアトロイアまで。
- 政治 — 貢納王政
  - 線文字B文書の解読で判明 by ヴェントリス @イギリス
- 前1200年代
  - 突然滅ぶ
    - 貢納による支配と収奪のいきづまり
    - 領域国家化
    - 外部勢力の侵入（海の民）
    - 原因？ はっきりわからない
  - 暗黒時代へ 400年くらい続く 文字の記録がない。
    - 鉄器時代へ
    - 小アジア西岸やエーゲ海の島へ移住。
    - イオニア人 アイオリス人 ドーリア人 に分かれる。方言で
- 暗黒時代 終了
- 前8世紀
  - 有力貴族の確立。
    - アクロポリス（城山）とアゴラ（広場）を中心に
    - 貴族（シノイキスモス）として生活していた。
  - ポリス
    - 貴族の中心、定住を促す
    - ⇒ 暗黒時代 終了
  - 交易が盛ん な沿岸部を中心に成立。
    - それぞれが 独立国家、隣とは国境を接する
    - but
      - 共通言語、神話
      - デルフォイのアポロン神の神託を
      - オリンピアの祭典（4年に1度）
      - ホメロスの叙事詩
      - 隣接同盟
      - 同一民族としての意識は持っていた
      - ハレネス
      - バルバロイ
  - 〈ポリスの構造〉
- 前6C 半ば
  - 人口増加で土地不足 → 植民活動を開始
  - 植民市を建設 → 交易が活発に
  - フェニキア文字を基にしたアルファベットが商業活動に欠かせない文字として定着
  - マッサリア
  - ネアポリス
  - シラクサ
  - ビザンティオン
  - 富裕になる農民の出現。
    - 金属の輸入で武器が安くなる
    - → 平民が武具を買って参戦できるように。
    - ⇒ 騎馬を使う貴族から、密集隊形を組む重装歩兵国が主力に。
      - 平民も多数参加。国防で大きな役割を果たすように。
    - → 参政権を主張
    - ⇒ 貴族政から民主政へ、重装歩兵民主政治
- 前7C
  - @アテネ
    - ドラコン … 法律を成文化 → 法による秩序の維持
      - 貴族が勝手に裁きができなくなる。
- 前6C 半ば
  - @アテネ
  - ソロン
    - 貴族と平民の調停者
    - 財産政治 → 血統ではなく財産の大小で参政権を定める。
    - 負債の帳消し
    - 債務奴隷の禁止 → 借財を負った市民を奴隷として売れないように。
    - 僭主政治へ … 独裁者（僭主）が平民の支持で政権を奪う
  - @アテネ ペイシストラトス
    - … 中小農民を保護 → のちに民主政の支持基盤に。
- 前508年
  - 僭主政治の崩壊
  - @アテネ クレイステネス
    - 地縁共同体である区（デーモス）を基礎とした10部族制へ。
      - 血縁に基づく4部族制から → アテネ民主政の基礎
    - 陶片追放（オストラキスモス）
      - … 僭主になるおそれのある人物の名を陶器の破片に書いて投票
      - 全部で6000票以上 集まったら 離れる 神聖盾を 10年間 国外追放
- 前5C はじめ
  - アケメネス朝の支配に反乱 @イオニア地方のミレトスを中心に → ダリウス1世が攻めてくる。
    - アテネが 支援
    - ⇒ ペルシア戦争へ。
- 前492 第1回 ペルシア軍 黄海を渡れず
- 前490年 マラトンの戦い ペルシア軍を打ち破る by アテネ市民
- 前480 テルモピレーの戦い スパルタ兵全滅
  - テミストクレスの指導で 海軍を拡大
- 前480年 サラミスの海戦 ペルシア軍海が大敗 by テミストクレス率いるギリシア連合軍
  - ペルシア軍：専制政治下の奴隷兵 雇い兵からなる。 → 指揮が不利になれば逃げる
  - ギリシア軍：自由な市民からなる。 → 指揮が不利になっても、でも戦う。
- 前479年 プラタイアの戦い ギリシア側の勝利確定 by アテネ・スパルタ連合軍
  - デロス同盟
    - … ペルシアの再侵攻に備える
    - エーゲ海 周辺の多くのポリスが参加
    - 盟主：アテネ
      - … 他の同盟国への支配力を強める。
      - 軍艦の提供 ＋ として戦争に参加した無産市民の発言力高まる。
- 前5世紀半ば
  - ペリクレス
    - アテネ民主政 完成！ → デロス同盟を構ポリスに広める。
    - 民会 … 成年男性市民の全体集会
      - 多数決で政策決定
      - 将軍：軍事最高職
      - 役人：任期1年 一般市民から抽選 弾劾裁判 職務が責任を追及される。
    - 裁判 … 陪審員裁判
      - 民衆裁判所で投票してもり決。
    - 参政権 … 両親ともにアテネ人の18歳以上の男性。 → 女性、在留外人、奴隷は×
    - 直接民主制 … 市民全員が参加。 貧富に関わらず。
    - → 民主主義の考え方を世界で初めて生み出した。 デモクラティア「民衆の支配」
  - ↔ スパルタ ペロポネソス同盟
    - 急速に勢力を伸ばしたアテネに脅威
- 前431年 ペロポネソス戦争
  - アテネ 民主政ポリス vs スパルタ 寡頭政ポリス
  - ペリクレスが疫病で死去
    - 政治がバラバラに
    - 強硬派 ↔ 穏健派 歩み寄り
    - 疫病で人口のうち死亡
    - 長期戦 → 民主政も動揺
    - 国力を回復
    - ペルシアが ギリシア人同士で 戦争するように しむける
    - 戦がしばらくおこまらる。
    - 土地を失って市民から転落する者が増える。
    - 市民軍にかわって 金で雇われて働く傭兵が流行
    - 商業同盟で 経済 経済へ
    - 貧富の差 広がる
    - 市民団の団結が失われる。
  - ペルシア 強力で スパルタが勝利
  - 結果 → 衰退
- 前4世紀 後半
  - マケドニア フィリッポス2世
    - ポリスをつくらなかったギリシア人の一族が
    - 軍事力を強める。
- 前338年 カイロネイアの戦い
  - マケドニア vs アテネ・テーベ 連合軍
  - Win！
  - ↓
  - コリントス同盟
    - スパルタを除く全てのポリスを集め、支配下に
- ヘレニズム時代
- 前334年 東方遠征
  - アレクサンドロス大王（フィリッポス2世の子）
  - ペルシアを討つ ギリシア諸国の争いに度々干渉してきたから。
  - マケドニアとギリシアの連合軍
- 前333年 イッソスの戦い
  - ペルシア王 ダレイオス3世を破る
  - エジプトを征服 アレクサンドリア建設
- 前331年 アルベラの戦い
  - ペルシアを滅ぼす。
  - 東に軍を進め、インド西北部までの大帝国を築く。
  - 東西文化の融合
    - 20万人のアレクサンドリア市。
    - オリエント風の儀礼、制度
    - 軍団結婚、混血政策
- 前323年 アレクサンドロス大王 急死
  - ディアドコイ（後継者）たちが領土を争う。 ディアドコイ戦争
  - 大きく ヘレニズム諸国 3つに分裂
  - アンティゴノス朝マケドニア
    - 前168 ローマが滅ぼす
    - ガンダーラ様式 バクトリア
  - セレウコス朝シリア
    - パルティア
  - プトレマイオス朝エジプト
    - 最後の女王 クレオパトラ
  - 前146 全ギリシアがローマの属州に
  - 大王の東方遠征からプトレマイオス朝 エジプトの滅亡までの約300年間（前30年）

アレクサンドロスの帝国とヘレニズム時代の3王国

→ ヘレニズム 時代
- ギリシア風 都市が オリエント中心 その周辺にも 建設される
- エジプト・アレクサンドリア ＝ 経済・文化の中心都市
- 政治的独立は 弱まったが、都市を基盤とする生活は 生き続ける。

〈市民と奴隷〉

- 自由人市民
  - 貴族 … 血統を誇る貴族 騎馬 騎馬の戦士、国政の主力
  - 平民 … エウポリ奴隷もを所有する独立した存在。市民同士は対等。
- 奴隷
  - … 人格 認められず 売買の対象
    - 借財で 市民身分から転落した人 → ソロンの改革で 解放した。
    - 戦争捕虜。
    - 異民族。

文化

- 明るく合理的、人間中心的な文化 ← ポリスの精神風土 ＝ 対等な議論、独創的な文化遺産 → ヨーロッパ諸文明の源泉。
- 宗教 … 多神教 オリンポス12神 ゼウス
  - 神々は人間と同じ姿や感情を持つ。
- 文学・哲学・歴史・科学 … 叙事詩からスタート
  - … 神々と人間の関わりを語る。 ホメロス、ヘシオドス
  - ↓
  - 前6C
  - イオニア自然哲学 … 自然現象を神々ではなく合理的に説明
    - 説明する。
    - ↑ 論理を議論を重視する研究風
    - タレス：万物の根源は水
    - ピタゴラス
    - ヘラクレイトス「万物は流転する」
    - デモクリトス 原子論
    - ヒッポクラテス 医学の父
  - ↓
  - 前5C アテネが 栄えの中心に、 言論の自由を保障したから。
    - 舞台で 喜劇や悲劇のコンテストを開催 観客は市民の義務
    - アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデス … 三大悲劇詩人
    - アリストファネス … 喜劇作家
  - ○ ソフィストの出現
    - … ものごとが真理かどうかに関わらず相手をいかに説得するかを教える。
    - プロタゴラス：「万物の尺度は人間」
    - ソクラテス：真理は絶対、よきポリス市民としての生き方を追求
      - 民主政を批判して処刑された。
    - プラトン：ソクラテスの哲学を受け継ぐ。
      - イデアこそが永遠不変
      - 理想国家論 … 選ばれた少数の有徳者のみが政治を担当すべき。
    - アリストテレス：プラトンの弟子 万学の祖
      - 経験と観察を重んじる。
      - イスラーム学問、スコラ学に影響
  - ヘロドトス、トゥキディデス ）歴史記述の祖 過去の出来事を史料の批判的検討で説明
    - ポリビオス 政体循環史観
  - ↓
  - ヘレニズム文化 コイネー が共通言語に
    - Museum ムセイオン（王立研究所）@エジプト、アレクサンドリア 設立
    - 世界市民主義（コスモポリタニズム）
      - → ポリス政治からの逃避、個人の内面的幸福の追求
      - エピクロス派 精神的快楽を求める
      - ストア派 by ゼノン 禁欲を重視
    - エウクレイデス：ユークリッド 幾何学
    - アルキメデス：数学・物理学の諸原理を発見
    - エラトステネス：地球の直径を計算
    - アリスタルコス：太陽中心説
- 建築・美術
  - ドーリア式 … パルテノン神殿 フェイディアスのアテナ女神像
  - イオニア式
  - コリント式
  - 小 → 大
  - ↓
  - ヘレニズム文化 … ミロのヴィーナス、ラオコーン